第90号
PIWU
郵政産業ユニオン
TOKYO・NEWS
２０２０年２月１日

● 発　　行 ●
郵政産業労働者ユニオン
東京地方本部
発行責任者　　田中　孝史
〒104－0031
中央区京橋 3-6-3
京橋通郵便局 5F

大幅賃上げで生活を改善しよう
今や日本は後進国なのか？

昨年１０月から消費税率が１０％に引き上げられ私たちの生活は大変です。しかも、社会保険料は年々上がり平成の３０年間で一般的な世帯で月３万４０００円も増大していることから実質賃金は減り続けています。この春闘で大幅賃上げを勝ち取り生活を改善していこう。

アベノミクスで大企業の内部留保は６年間だけで１１６兆円増え、４４９兆円へと膨張し続けています。全企業の内部留保は６９２、４兆円(２０１８年度)にも上っています。

その一方で、私たちの生活は賃金の引き上げがされてないことから貧困と各差が益々広がっています。日本の国内総生産は(ＧＤＰ)は２０００年の２位から２６位に後退し、勤労者の平均給与は１９９７年をピークに２０年も下がり続けて月額約５万円(２０１８年度)も下回っています。そして、「今や日本は先進国ではなく後進国」と言われるまでになっています。他の国ではこの２０年間賃上げがされていますが、日本だけが賃上げされてないからです。私たちが大幅賃上げを勝ち取るたたかいは賃下げを取り返すことでもあります。

内部留保３パーセントで２万５千円は可能

全労連によれば全ての労働者の２万５０００円の賃上げは全企業の内部留保２、９５％、非正規社員の時給１５００円は２、３７％取り崩すだけで可能としています。これを勝ち取れば国内総生産(ＧＤＰ)は３４、３５兆円増加し、雇用や税収も増え、経済を活性化させることにもなります。

郵政のアンケートで５万円の要求が最多

郵政労働者の生活も深刻です。私たちが昨年秋に行ったアンケートによると、正社員が求める賃上げ要求額は５万円が最も多く、月給制社員は３万円、非正規社員は時給１００円が最も多くなっています。こうした金額が出されるのはそれだけ生活が苦しいからです。

郵政ユニオンは全ての労働者の賃上げと底上げ、非正規社員の待遇を改善させていくために今年の春闘もたたかっていきます。一緒に頑張っていきましょう。

３月２日、春闘勝利と非正規社員の待遇改善を求める本社前行動に参加しよう！

地下鉄大手町・日本郵政本社前・11 時

（昨年３月４日の本社前行動）